

令和8年度

入学試験 国語問題

注

- 解答は解答用紙の枠からはみ出さないように記入すること。
- 字数制限のあるものは、原則として句読点、記号も一字に数えます（指示のあるものは除く）。
- 問題用紙は持ち出さないこと。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改編したところがあります。)

ゴリラとサルがちがいは知能ではなく、社会性がちがいだ、と山極※は考えている。すでに見たように、サルの社会が立場の優劣で態度を決めるヒエラルキー型の社会であるのに対して、優劣のないゴリラ社会では、互いに相手をじっと見て、相手の思いを汲み取って自分の態度を決める。

この態度のちがいがよくわかるのが、食事の時だ。「ゴリラは食べ物を前にして、共存と許容を仲間と示し合う」と山極。サルが食べ物を分配したり、共有したり、食べる場所を譲ったりということに **I** なのに対して、ゴリラはそこに意味を見出している、と。

① こうしたちがいが出てくるのは、山極によれば、ゴリラの社会が「負けない(勝たない)論理」でできているのに対して、サルの社会が「勝ち負けの論理」でできているからだ。では、人間はどちらの論理でできているのだろうか。人間は本来、「負けない(勝たない)論理」に属している、と山極は考える。

「勝ち負け」に左右される社会から、されない社会へ。ここにこそ、サルからゴリラや人間へ、という進化の重要な意味があった。そして、「負けない(勝たない)社会」をつくるための装置が「家族」だったのではないか、というのが山極の考えだ。言い換えれば、ゴリラや人間は、家族という組織をもつことによって、社会の中に「勝ち・負け」や「支配・被支配」とはちがう、対等な関係をつくり、定着させることができた、というわけだ。

a 人間の家族では、文化によるちがいかかわらず、親子、夫婦、兄弟の間にある体の大きさや腕力の差が、そのまま支配関係になることはめつたにない。「勝ち負け」は、「……ごっこ」と呼ばれる遊びの時間の内に限定されている。家族にもケンカはつきものだが、ゴリラの場合と同様、それは勝敗を決するためのものではなく、広い意味でのコミュニケーションの一部だと考えられる。へ 1 へ

ゴリラには、オスが胸をたたいて相手を威嚇する「ドラミング」が知られていて、これが、ゴリラのこわさや強さを象徴す

るものだ、とかつては多くの人が思っていた。ほくもその一人だ。でも、山極によると、それは相手への宣戦^Aフ告などではなく、自分の存在をアピールしたり、好奇心を表現したりしながら、b、相手に対して自分は対等なのだと訴える行動だという。それは人間で言えば、たとえばプロ野球の試合で、審判の判定に不服な監督が、激しく（一見、ケンカのように）抗議するのに似ている、と。へ 2 ヽ親子ゲンカにも、夫婦ゲンカにも、兄弟ゲンカにも、同じことが言えそうだ。

「遊び」は類人猿にとって、なくてはならないとても重要な要素だ。ゴリラも、人間も、親子がじゃれ合うようにして遊んで楽しむことがよくある。この一見単純な遊びの中には、体も大きくて強い者が自らの力をわざと抑制することで、小さくて弱い者に自分を合わせる、という複雑な行動が含まれている。へ 3 ヽそうやって、力の差を減らし、互いを近づけ、バランスをよくすることで、遊びはより面白くなり、興奮が高まる。

この興奮は、どちらが勝つか、負けるかをめぐって競争するスポーツでのハラハラドキドキとはちがう。「強弱」を一度カッコの中に入れて、両者が歩み寄るようにして楽しむのだ。

勝ち負けのない世界でもうひとつ大事なのが、「分配」という行動だ。なぜ、ゴリラも人間も食物を分かち合うのだろう。山極の説明によると、それは飢えた仲間の生存のためというよりも、「互いのきずなを確認する、あるいは親睦^{しんぼく}を深める」といったコミュニケーションの方法として発達した。その意味で、「分配」は「遊び」と同様、「感情の快の領域を刺激した」。平たく言えば、「気持ちよかった」のだ。へ 4 ヽ

競争して奪いとったり、独り占めしたりするのも、一種の快樂はあるだろう。でも、ゴリラや人間は、それよりも、分かち合いという喜びの方を重視した、というわけだ。

また、分配という点で、人間はゴリラよりさらに大きく一步を踏み出したようだ。家族内の分配を、家族間へと広げ、コミュニケーションという分配のネットワークをつくり出す。

それにつれて、家族の中での対等な関係は、家族同士の対等な関係へと、発展する。そこでは、ほかの家族を攻撃したり、

支配したりしない。つまり、勝ちも負けもない。それがコミュニティというものだ。

人間は、狩猟のための道具を武器として同じ人間に向けるようになり、武力で社会の秩序をつくりだしたという説が唱えられたこともあったが、ほくはむしろ、生存のためにコミュニケーション能力を高め、食べ物を分け合ったり、共同作業をしたりして対等な関係を築いてきたことこそが、人間としての進化に重要な役割を果たしたのだと思っている。

山極も、人間が、家族と共同体を両立させた唯一の動物だという点に注目している。そして、それこそが、人間ならではの特徵、つまり「人間らしさ」というものの核心ではないか、と。

「弱さ」という観点から考えてみよう。

c

、人類史の大部分を占める狩猟採集生活がどんなものだったかに思いをは

せながら、そこでの「弱さ」としてどんなことがあったか、想像してみる。すると、人間の生存にとって不利になりそうな身体的な条件や制約のことが思い浮かぶだろう。幼い子ども、病人、けが人、老人。彼らの「弱さ」とは、だれもが人生のある時期に必ず、あるいはおそらく、経験することになる「弱さ」。また、さまざまな身体的な障がいという「弱さ」を抱える可^Bウ性は、今よりも多かったのではないか。身ごもってお腹の大きな女性、また乳児をもつ女性も、多くの制約を負う。その女性を一員とする家族や共同体もまた、その「弱さ」を共同で抱えることになる。同じように、上にあげたすべての制約は、単にその人個人のものではなく、同時に、家族やコミュニティ全体に深く関わるものだったはず。

d

、こうした「弱さ」をどうするか。それは、単にその人だけの問題ではなく、家族、コミュニティ、そして社会全体の問題だ。

遊びも分配も高度なコミュニケーションも、みな、お互いが抱えている「弱さ」を補い合うことで、「弱さ」を「弱さ」のままにしておかないための方法だと言える。「弱さ」だったものや、「弱さ」でありえたことを、「弱さ」ではない「もの」や「こと」へと変えてしまうのだ。すると「弱さ」という言葉や概念が意味を失ってしまう。それが「勝ち負けのない社会」というものだろう。

遊びや分配が「弱さ」を無^Cコウにする方法だと言ったが、逆に、「弱さ」や「強さ」からなるデコボコがあったおかげで、そ

れに対処するために、遊びや分配が発達し、人間は高度なコミュニケーションや共感の能力を得ることになった、とも言えるだろう。^⑤つまり、人間ならではの「強さ」とは、もとをたどれば、「弱さ」のおかげだった、というわけだ。

(中略)

「弱さ」を補い合ったり、強弱のデコボコをならしたり、勝ち負けをなくしたりするために役立ってきた家族やコミュニティを失った時、再び、個々人の「弱さ」がむき出しになってしまう。そして裸のまま、強い者たちが支配する社会に放り出される。

思えば、これこそが近代化と呼ばれる過^Dテイだったのだろう。そして今や、**II** 化によって、ぼくたちは、地域とか国とかという衣さえ脱ぎ捨て、バラバラの自由な個人として、勝ち負けを競う**II** ・マーケット(世界規模の経済市場)に投げ出されようとしている。そこでの経済活動とその成果だけが、ぼくやきみが何者であるかを決めることになるだろう。

これは、どう見ても、**III** 化した人間社会の完成だ。そしてそれは、人間を人間にしてくれた進化のシヤ^E輪を逆に回すことに他ならない、とぼくには思えるのだが……。

「人はパンのみにて生きるにあらず」という聖書の言葉をきみは知っているかな。ぼくたち人間はたしかに、いくら食物などの物質的な豊かさに恵まれていても、ひとりでは生きていくことができない。家族やコミュニティを形成して生きる社会的な動物なのだ。

これを言い換えれば、そうしないと生きていけないくらい脆^{もろ}く、弱い存在だ、ということになる。でも、その「弱さ」にちゃんと向き合うことよって、ともに食べ、ともに住み、ともに生きることができるようになった。ともに認め合い、感じ合い、そして愛し合うことさえできるようになった。そういう方向へと進化することで、強弱、勝敗、優劣、上下といった二元論^{*}を超える力を得たのだ。そういう力の大きさに、「弱さ」があった。そう考えれば、「弱さ」ってすばらしいじゃないか。

^⑥だから、やつぱり、弱虫でいいんだよ。

(辻信一『弱虫でいいんだよ』)

- ※ 山極：アフリカの森に棲むゴリラを長年研究してきた人類学者の山極寿一。
- ※ ヒエラルキー：階層制や階級制。
- ※ 二元論：対立する二つの要素で説明しようとする考え方。

問一 傍線部A～Eのカタカナを漢字で表記したとき、同じ漢字を使うものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A フ告

ア 農業のフ加価値を高めたい。
イ かなりフ担が大きいようだ。
ウ 世の中がフ景気になる。
エ フ教活動に熱心にとりくむ。

B 可ノウ性

ア 機ノウも見た目も優れている。
イ 初心者向けのノウ作物はこれだ。
ウ とてもノウ厚な味ですね。
エ 人間は苦ノウする生き物だ。

C 無コウ

ア あの子のコウ物は何だろう。
イ コウ果は一時的なものだ。
ウ じつくりコウ察する時間。
エ その言い訳には閉コウする。

D 過テイ

ア 被害のテイ度は深刻だ。
イ とても大きな料テイ。
ウ 売り上げがテイ迷する。
エ 電車のテイ期券を買う。

E シヤ輪

ア 第三シヤに確認してもらおう。
イ 出雲大シヤにお参りする。
ウ 新校シヤを建設中です。
エ この地域は水シヤが有名だ。

問二 a d に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

- ア たしかに
- イ まず
- ウ 要するに
- エ しかし
- オ では

問三 次の一文は本文中の〈1〉〈4〉のどの箇所に入れるのが適当ですか。数字で答えなさい。

一方の小さくて弱い方は、「背伸び」するようにして、自分の力を引き上げること、相手に合わせようとする。

問四 I II III に入る適当な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- I ア 無意味 イ 無慈悲 ウ 無自覚 エ 無関心
- II ア マニユアル イ オンライン ウ グローバル エ デジタル
- III ア サル イ ゴリラ ウ 共有 エ 分配

問五 傍線部①「こうしたちがい」とは何かを説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出して答えなさい。

サル①(五字)の社会は、②(七字)を重視する「③(五字)」で成り立っているのに対して、ゴリラ④(十二字)の社会は、仲間と⑤(五字)を示し合うことを基本とする「⑥(十二字)」で成り立っている。

問六 傍線部②「面白く」の品詞名を漢字で答えなさい。

問七 傍線部③「『強弱』を一度カッコの中に入れて」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一時的に強弱の差を棚上げし、双方が歩み寄りバランスを取ること。
- イ 一時的に強弱の差を見て見ぬふりをし、勝負に挑もうとすること。
- ウ 一回だけ強弱の差を棚上げし、それ以降は全力で戦おうとすること。
- エ 一回だけ強弱の差を見て見ぬふりをし、お互いの力のバランスを保つこと。

問八 傍線部④「人間が、家族と共同体を両立させた唯一の動物だ」という点」について、後の問いに答えなさい。

1 「人間が、家族と共同体を両立させた唯一の動物だ」といえる理由を説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中からそれぞれ五字以上十字以内で抜き出して答えなさい。

人間は、家族という組織を持つことで ① を作り、それを家族同士へと広げ、
 ② を作り出すことができたから。

2 「人間が、家族と共同体を両立させた唯一の動物だ」という点」を言い換えている部分を本文中から十五字で抜き出して答えなさい。

問九 傍線部⑤「つまり、人間ならではの『強さ』とは、もとをたどれば、『弱さ』のおかげだった、というわけだ」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一人一人の力は弱いが協力すれば強くなれるということに気づいたことで、今の人間の社会性があるということ。

イ 人間は制約のために弱くならざるをえなかったが、勝ち負けという概念から解放されたことで社会性を手に入れたということ。

ウ 人間は本質的に脆く、弱い存在であり、その弱さに集団で向き合うことで独自の能力と社会性を発展させてきたということ。

エ 人間はもともとは力が弱かったが遊びの中で鍛えることができ、結果的に強さを手に入れて社会性を身につけたということ。

問十 傍線部⑥「だから、やっぱり、弱虫でいいんだよ」について、その理由を説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中からそれぞれ指定された字数で抜き出して答えなさい。

① (十三字)

ことで、共感の力を身につけ、

② (八字)

を手に入れることができたから。

問十一 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 国際社会において豊かさを目指すには競争社会を克服することを全てとし、弱さの補完は勝利した後で対応すべきである。

イ 人間は競争社会を長い歴史の中でやっとの思いで克服したからこそ、現代の国際社会にしっかりと対応することができる。

ウ 何よりもまず生存競争に勝ち残ることが全てであり、それから初めて豊かさを追い求めることができる。

エ 競争に一時的に勝利することが決して全てではなく、他者の弱さの補完することこそが本来の豊かさをもたらす。

【二】 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

唐もろこしの育王山※の僧二人、布施※を争※ひてかまびすしかりければ、その寺の長老、大覚連だいかくれん和尚しやう、この僧Bを恥※しめて云※はく、「ある俗、他人の銀しろがねを百両預りて置きたりけるに、かの主死して後、その子に是これを与ふ。子、是を取らず。『親、既に与へずして、そこに寄せたり。』^②その物なるべし』と云ふ。かの俗、『我われはただ預りたるばかりなり。譲り得たるにはあらず。親の物は』^① I の物とこそなる II 』とて、また返Yしつ。互互ひに争争ひて取らず、果てには官Cの序ちやうにて判断を乞こふに、共に賢人なりと。『云ふ所当たれり。すべからく寺に寄せて、亡者の菩提※を助けよ』と判ず。この事、まのあたり見聞Zきし事なり。世俗塵勞ちんらうの俗士、なほ利養Dを貪むさぼらず。割愛出家※の沙門しやもんの、世財せざいを争争はん』とて、^③法に任せて寺を追ひ出してけり。

(無住道暁『沙石集』)

- ※ 育王山：中国浙江省東部の山。
- ※ 布施：僧に対する仏事の謝礼。
- ※ かまびすしかり：騒がしい。
- ※ 云はく：言うことには。
- ※ 俗：一般の人。
- ※ すべからく：～するべきである。
- ※ 菩提：死後の世界での幸福。
- ※ 世俗塵勞：俗世間のわずらわしさ。
- ※ 利養：利益。
- ※ 割愛出家の沙門：俗世間への愛着などを立ちきって出家した僧。

問一 二重傍線部 A 「争ひて」・ B 「恥はぢしめて」・ C 「官くわん」・ D 「利養りやう」の歴史的仮名遣いの読み方を現代仮名遣いに改めなさい。(二重傍線部分をすべてひらがなで書くこと。)

問二 I に入る適当な語を本文中から抜き出して答えなさい。

問三 II に入る適当な語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア べから イ べかり ウ べかる エ べけれ

問四 傍線部 X 「云ふ」・ Y 「返しつ」・ Z 「見聞きし事なり」の主語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

ア 育王山の僧二人 イ 大覚連和尚 ウ ある俗 エ 親 オ 子

問五 傍線部① 「この僧」とは誰のことですか。本文中から抜き出して答えなさい。

問六 傍線部② 「その物なるべし」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア だからこの銀は私のものである。

イ だがこの銀は私が処分するべきものである。

ウ だからこの銀はあなたのものである。

エ だがこの銀は貴重な天然の鉱物である。

問七 傍線部③「法に任せて寺を追ひ出してけり」の現代語訳は「寺の決まりに従って二人の僧を追放した」ですが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お布施の受領者として適任であると役所から判定されなかったから。

イ 二人の僧が一心に精神修養に精励せず、目先の利益に心乱されたから。

ウ 子が財産をのこそうとした親心に少しも気付けず、孝心が欠けていたから。

エ 親の貴重な銀を寺院に寄付せず、我が子の将来のためだけに活用したから。

問八 本文中には『』が付いていない会話文が一つあります。その部分を抜き出して答えなさい。

問九 この作品は鎌倉時代に成立しました。この作品と同じ時代に成立した作品を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 徒然草 イ 今昔物語集 ウ 枕草子 エ 土佐日記 オ 源氏物語

〔次頁に問題が続きます〕

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 次の四字熟語の（ ）に入る身体の部分を表す漢字を答えなさい。

- ① 異（ ） 同音
- ② 一（ ） 瞭然
- ③ 馬（ ） 東風
- ④ （ ） 尾一貫
- ⑤ 抱（ ） 絶倒

問二 次の言葉の意味として最も適当なものを後のア～キの中から選び、それぞれ記号で答えなさい。(同じ記号は二度以上使用しないこと。)

- ① 雲泥うんでいの差
 - ② 釘を刺す
 - ③ 蛍雪けいせつの功
 - ④ 光陰矢の如ごとし
 - ⑤ 千里の道も一歩から
- ア 苦勞して学問に励んだ成果のこと。
- イ 月日の経過が速いこと。
- ウ 理屈ではわかっていながら実行が伴わないこと。
- エ 同じ基準で見ても大きな隔たりがあること。
- オ 大きな事業の成就には、手近なところから始めるべきだということ。
- カ 後で間違いを起こさないように、あらかじめ念を押すこと。
- キ 両者とも素晴らしく優劣のつけられないこと。